

エアライト^{PAT.}

この内装はヘルメットの
常識を変える。

あっ!

発泡スチロールが
ない!

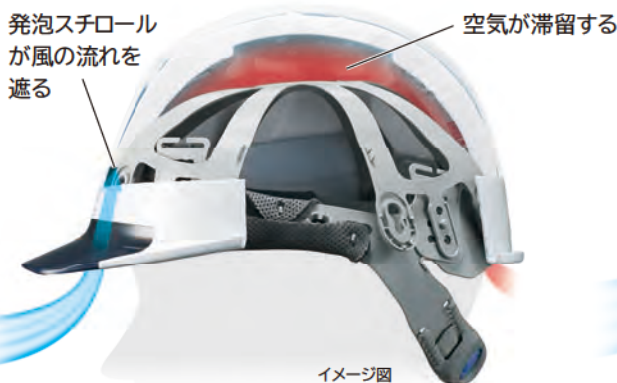


涼しさと安全性を両立した 新次元の内装「エアライト」^{PAT.}。

1 涼しい

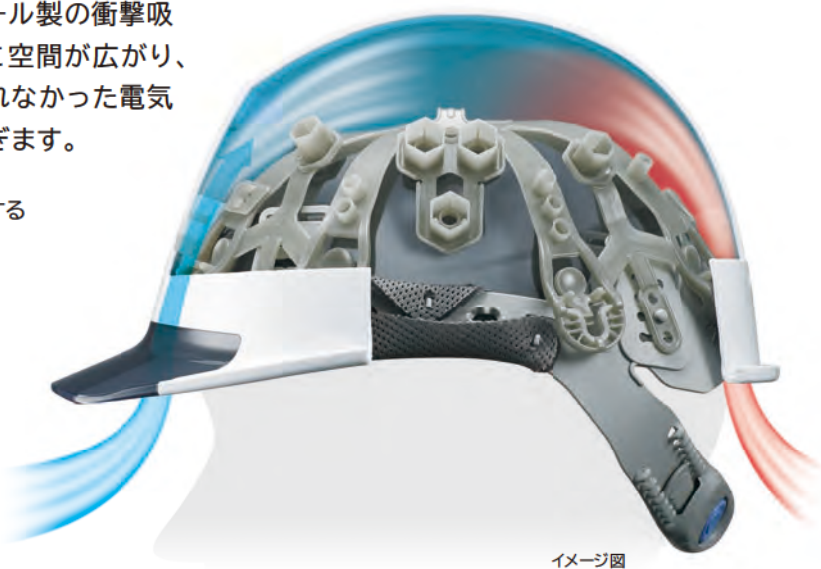
新開発の内装「エアライト」と帽体の間に風が流れます。

エアライトを搭載したヘルメットは、発泡スチロール製の衝撃吸収ライナーがなくなったことでヘルメット内部に空間が広がり、格段に通気性が向上しました。通気孔を設けられなかった電気用ヘルメットでも効果的に風を通して、ムレを防ぎます。



従来品の空気の流れ

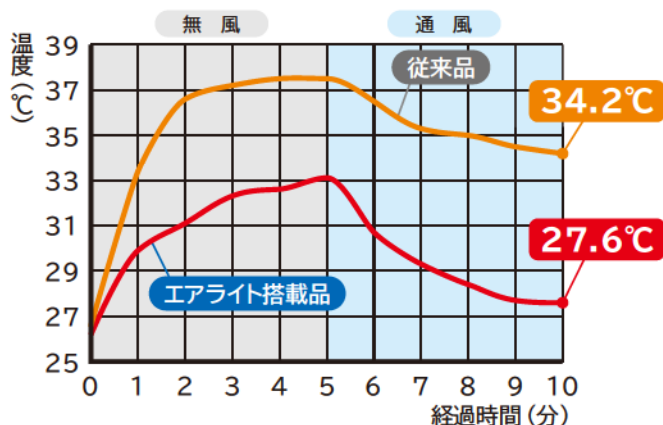
発泡スチロールが風の通り道を塞ぎます。前方からの風が頭頂部まで入りにくいいため、後方から排出しにくくなっています。頭部の熱が逃げず、ムレやすい構造です。



エアライト搭載品の空気の流れ

風の通り道を塞ぐ遮蔽物がありません。前方からの風が頭頂部の広い空間に入り込み、頭部の熱を後方から排出します。湿気も同時に排出するため、ムレにくい構造です。

■従来品とエアライト搭載品の頭頂部付近の温度変化比較※1



エアライト搭載品は従来品に比べ、温度上昇が緩やかです。通風5分後には試験開始の温度に近い温度に戻っています。これは通風させたことにより、暖まった空気を押し出し、空気が入り替わっているためです。

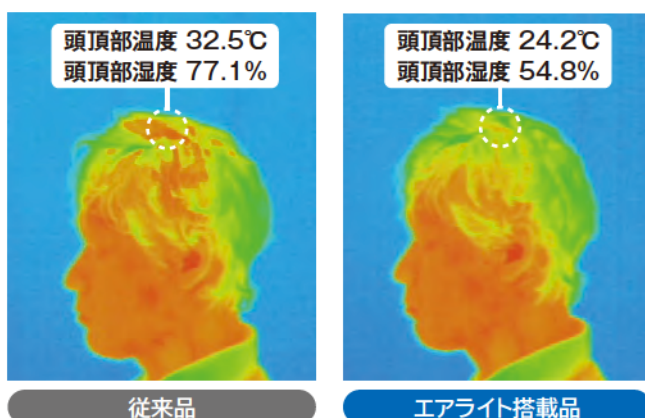
試験方法

37℃に設定したサーマルメキンにヘルメットを着用させ、時間経過によるヘルメット内部の温度変化を内装頂部の1cm上で測定。開始時は無風、5分経過後にヘルメット正面から風速1m/sの風を5分間あてる。

(試験ヘルメット) ST#161型 (試験条件) ○室温26℃ ○湿度50%

※1 帽体の形状の違いにより効果は異なります。

■従来品とエアライト搭載品着用後の頭部温度・湿度比較



試験方法

室温23℃、湿度54%の室内でヘルメットを着用して15分間運動した後の頭部の温度・湿度を比較。

オプションで遮熱塗装をプラス!

屋外作業でヘルメット内の温度上昇を抑制する遮熱塗装と組み合わせて快適に。



※ 塗装には別途加工代が必要です。

これまでのヘルメットは墜落時保護のため発泡スチロール製の衝撃吸収ライナーがセットされていました。しかし、発泡スチロールで頭部の空間をふさいでしまうため、「暑い」「ムれる」という欠点がありました。
そこでタニザワ独自の技術が凝縮した「ブロックライナー」を開発し、日本で初めて発泡スチロール製の衝撃吸収ライナーがないヘルメットで墜落時保護用の検定を取得。涼しさと安全性の両立に成功しました。



エアライト

(特許第5591984)

2 安全

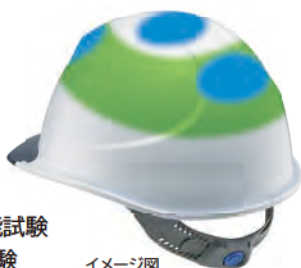
従来品の衝撃吸収ライナーと同等以上の性能をもつ「ブロックライナー」。

前後左右に配置したブロックライナーは発泡スチロール製の衝撃吸収ライナーと同等以上の衝撃吸収性能を発揮し、墜落時保護用の検定を取得しました。



厚生労働省「保護帽の規格」以外に、タニザワが独自に設定したほとんどの試験箇所、エアライト搭載品は従来品と同等もしくはそれ以上の衝撃吸収性能を発揮。墜落時や転倒時にも、しっかり頭部を保護します。

- 「保護帽の規格」の衝撃吸収性能試験
- タニザワ独自の衝撃吸収性能試験



イメージ図

【衝撃吸収性能試験】



ブロックライナーが潰れることで衝撃を吸収します。

3 かんたん交換

内装交換がラクラク。新開発「サムリリース機構」。

新開発の「サムリリース機構」はリリースボタンを押しながら、掛け具を動かすだけでかんたんに取り外せます。余計な力を使わずに、スムーズに内装交換ができます。
「絶縁用保護具等の定期自主検査」時にも便利です。



リリースボタン

サムリリース機構

かんたん 2ステップ



1 リリースボタンを押し、ロックを外します。掛け具を帽体の外側へずらします。



2 掛け具を持ち上げて外します。